

令和6年年度行政視察（高知県高知市・日高村・NPO 法人日高わのわ会）

令和6年11月6～8日 金川 孝幸

津波救命艇の確認（高知市）

高知市で設置した救命艇は民間企業から寄贈されたものを動物園の駐輪場に設置していました。海から離れた高台に避難するのが基本で逃げ遅れた職員など最悪の事態を想定したものでした。

津波避難タワーの確認（高知市）

海抜の低い地域であっても民間の丈夫な建物など多くの避難ビルが指定されていました。高い建物の少ない地域には避難タワーと避難センターを設置。タワーとセンターは一時的な避難場所と避難所の機能を持つ違いがあり、タワーは構造物のため風雨を凌ぐ設備やトイレなどは無く命を守る最低限の施設でした。

村まるごとデジタル化、移住定住事業（日高村）

村の財源やマンパワー不足を補うにはDXの推進が不可欠として、スマホを活用し健康、防災、情報分野の取組を検証。

移住定住策として村が空き家を借り上げてリフォームして移住者に提供したり、空き家マッチングツアーを実施。中間所得層向けの村営住宅建設などの取組を検証した。

NPO 法人わのわ会の取組（日高村）

できる人が、できる時間に、できることを、の考え方で誰でも活躍できる社会をつくる様々な事業を展開。買い物代行サービスなどを検証した。

感想

高知市の防災対策ではハード面だけでなく、防災リーダーの育成などの取組が参考になった。津波救命艇は防災教育には効果があるものの実際の運用には疑問を持った。

日高村では村の職員の目的を持った活動が活かされ、わのわ会についても村民の熱い思いが実を結び、全国から多くの視察が訪れる理由を理解でき大変有意義な視察となりました。

日高村の取組は大変参考になるので八丈町の職員も視察して欲しい。